

# 歌劇「いやいやながらの王様」あらすじ

—Mark Pappenheim による

## 第 1 場

### § 1

1574 年のポーランド、(フランスの王位継承者である) アンリ・ドゥ・ヴァロワはポーランド王に選ばれクラクフ郊外の城にて戴冠式を待っている。しかし、家臣のフランス貴族たちと同じく、彼は退屈しひどいホームシックになっていた。

### § 2

フランスの領主たちがサイコロ遊びやトランプに興じている間に、(アンリがお気に入りの親友である) ナンジがクラクフから帰還する。彼は楽しんできたばかりである束の間の色恋ごとを自慢するために、そして王の守備隊を形成すべく募った新兵をお披露目するために帰ってきたのである。

ポーランドの民衆はアンリが王に選ばれたことを支持しているのだが、ラスキ伯爵の率いる貴族一派はアンリに敗れたオーストリア大公エルネストを代わりに王にしようと企んでいる。アンリはそれゆえに後日戴冠を終えるその時まで、華やかな場からは身を隠していなければならなかった。

### § 3

生き生きとしたマズルカが演奏されている傍らで、ヴェネチア人のフリテッリ公爵が「ポーランド人はフランス人に比べて批判的な性格である。」と力説している。ラスキ伯爵の姪であるアレクシナを妻としているフリテッリ公爵はラスキ伯爵の共謀者なのだが、そのことを知らずにフランスは彼を式武官に任命していたのである。



ナンジは友人たちに新しい最愛の恋人がポーランド人のミンカであることを明かす。ミンカはラスキ伯爵一家の農奴の娘であり、ラスキ伯爵をスパイしてフランス側に情報を流すことに同意していた。

### § 4

丁度その時、ポーランド衛兵に追われたミンカが飛び込んでくる。ナンジは衛兵たちを叱り飛ばし、怯えたミンカを安心させる。彼女はナンジの愛と庇護の下にあり、友人たちはミンカの美し

さを賞賛するのだった。

#### § 5

ミンカは「私は籠の中の鳥のようなもの。どうか私を自由と愛に包まれた新たな未来へとお導き下さいませ。そのために私と一緒に我慢をなさって下さいね。」とナンジに乞う。

我慢なさって、という一方でミンカはその日の夕刻にナンジと逢うことに同意しており、到着したら城壁の下から歌を歌って知らせると彼女は約束している。そんな中ではあるが、ミンカはラスキ伯爵一派の陰謀の進み具合についてナンジへ最新の情報を伝えることができた。アンリが現れたのを見てナンジがそそくさとミンカを連れ出す前に…。

#### § 6

アンリは独り考えを巡らし、故国フランスへの愛を募らせている。ポーランドに背を向け祖国に戻れたなら、さぞや幸せなのでは—という考えを鮮明にしてきているアンリに対し、ナンジは思い出すようにと語る。「ヴェニスにいらしてポーランドの美女と密かにお付き合いしていた最近まで、陛下はかくもポーランドを嫌ってはおられませんでしたぞ。」と。



これをふと耳にして、フリテッリ公爵はアンリとナンジは(自分の妻である)アレクシナについて話しているのではと思いついた。まさにその時アレクシナ本人が現れ、その夜開催されるラスキ伯爵の舞踏会に出るようにとフリテッリ公爵へ命じた。この舞踏会の中に、共謀者たちはアンリを誘拐し国境の向こうへと連れ出す計画をまとめようとしていたのだ。

#### § 7

アレクシナは自分を突き動かすのは純粋に野心によってのみと認識しており、如何なるフリテッリ公爵からの愛の言葉もそっけなく打ち棄てている。フリテッリ公爵はアレクシナの機嫌をとり、びくびくしながらも愛の言葉を望んでいたし、おそらく彼女からの優しい愛情も望んでいたろう。

もちろんアレクシナは誘拐の対象となっているアンリが自分の元恋人その人だとは知らない。だが彼女はアンリにふられたことを根に持って、フランス人の男全てに対して復讐を誓っていた。

#### § 8

その間にミンカはというとアンリに出くわすが、彼女は彼のことを(間もなく王となるその人ではなく)普通の廷臣だと思い込んだ。ミンカはアンリに初手からナンジへの熱烈な愛情をまくし立て、それからアンリ王に敵対する陰謀について語る。そして何にしてもナンジには報奨が与え

られるべきだ、と主張するのだった。

アンリはこの陰謀の話聞いて大いに喜んだ。もしその陰謀通りに進めば直ぐにフランスに帰れるからである。ミンカがフリテツリ公爵を陰謀者の一人として認識してしまうと、アンリは最初に彼を重い反逆の咎により処刑するはめになりそうである。それなら、とアンリはフリテツリ公爵が自分をラスキ伯爵の舞踏会へ連れて行くのもアリだろう？と申し出た。なぜなら、今やアンリも自分自身に降りかかる陰謀に加わりたいのだから。

#### § 9

普通なら驚愕だが、そこでアンリは適当な罪状を以ってナンジを逮捕させる。アンリはナンジに成りすまさせてもらおうというのである。混乱のさなかにアレクシナが現れ(フリテツリ公爵にとっては甚だ苦痛なことだろうが)、元恋人同士のアレクシナとアンリは再会しお互いを認識した。双方ともに感情より策略を優先することで一致し、平静を装っていたけれども…。

ミンカが外でセレナーデを歌うのが聞こえた時、本物のナンジは窓から逃走し、一方でナンジに成りすましたアンリは陰謀者たちに加わるため急いで退出するのだった。

## 第2場

#### § 1

その夜、ラスキ伯爵の宮殿での大舞踏会はまさに酣(たけなわ)となっている。客人たちが(フランス人の色恋について語りつつ)踊っている一方で、ラスキ伯爵は共謀者たちを集めていた。(死にそうなほどの心の痛みに耐えて秘密を誓いながら)フリテツリ公爵はナンジに成りすましたアンリのことを他の共謀者に紹介している。かつて王の友人であったが、今や辱められアンリへの復讐を渴望している男として。

#### § 2

アレクシナ、アンリ、フリテツリ公爵そしてラスキ伯爵は、友情というものは憎しみや裏切りへと変貌しがちであることに思いを巡らせている。

アレクシナの真の正体が判って、アンリは何でアレクシナのことを事前に言ってくれなかったのかとフリテツリ公爵を非難した。対してこのイタリア人公爵は、自分は妻アレクシナへの愛ゆえにその伯父であるラスキ伯爵の陰謀に加担しているだけのことだ、と説明するのだった。

#### § 3

高貴なお方に見初められて良かったなあ…と仲間の農奴たちに祝福され、ミンカは抑えきれぬ愛の力を祝う”古いジブシーの歌”を歌う。脱出したナンジが宮殿の外で歌う彼女の声を



聞いた時には、ミンカは彼と合流する準備ができていたのだが…。

そうではなく彼女はアンリとフリテッリ公爵によって隣接する部屋に閉じ込められてしまった。アンリとフリテッリ公爵の両方が陰謀者であると勘違いしたミンカが、王の衛兵を喚んで化けの皮を剥いでやると脅したためである。

#### § 4

遂にアンリと二人きりになるや、アレクシナは怒ってヴェニスでアンリが彼女を捨てたことを責め立てた。アンリは「他に成すすべがなかったんだ」と力説する。アレクシナとアンリはともに優しい気持ちでイタリアでの二人の恋を呼び覚ましていた。

#### § 5

アンリは”その王”をポーランド国から排除するという厳粛な宣誓を成さんとする陰謀に参加するだけでなく、陰謀者たちに「やるぞ」という決心を固めさせることにも成功する。それを率いるフリテッリ公爵がすっかり怯えているために、その決心は暫し弱まっていたけれど。アンリには一つだけ問題がある。陰謀者たちの誘拐すべき”王”を見つける必要があるのだ。そこでアンリはミンカを解放し、ナンジを呼び寄せさせる。いつものミンカとナンジとの”合図”である「歌」を使って…。

#### § 6

ミンカが「いよいよ貴方と契りを交わし、私たちの愛を完成することで心が定まりました。」と表明したので、ナンジは愛の炎に燃えて突入していったがーミンカに判ったのは、ナンジのことを”その王(アンリ)”だと信じた陰謀者たちによってナンジが捕えられたことだけだった。実際のところ、アンリにそそのかされナンジは王に成りすますことを受け容れる。そしてナンジが最初に演じたのは、「自分(ナンジ)に成りすましたアンリ」を許すことであった。アンリが「私が”王”を国境の向こうまでお連れ致しますよう。」と申し出た時、遂にナンジはこの親友(=アンリ)が安全にポーランドから脱出しようとして計画していることを把握したのである。

#### § 7

しかしナンジは知らぬことながら、今や陰謀者たちは計画を変更し、結局”王”は殺してしまおうと決めていたのである！

陰謀者が全員一致でこんな決定するさまに直面し、アンリは自分のことはかなぐり捨て「実は我こそが、汝らが殺したがつている王である。」と正体を明かす。しかしアンリが「ナンジは君らの味方だよ。」と説得しても陰謀者たちは信じそうにないーそして殴り殺されるべき者として”ナンジ”を選んでしまうのだった。

アンリが何を成すべきか(=本物のナンジを殺すべきか、自分自身を殺すべきか)決められないうちに、ミンカが「私が王様を解放したわ。」と声を発した。フランスの報復を恐れて舞踏会の客は全員が逃げ出し、アンリが「その“王”にはポーランド国から出て行っていただく。」と宣誓を繰り返し、ミンカは愛するナンジを救出すると誓うのだった！

## 第3場

(幕間)

§1

ポーランド国境近くの宿屋では、民衆が戴冠式の日を祝っている。そこでフリテツリ公爵が今こそアンリではなくエルネスト大公が新しい王となるだろうと声明したのである。宿屋の主人バシルにとっては民衆たちと同様、アンリだろうがエルネストだろうがどちらが王様でもよく、彼らは祝宴を続けていた。

アンリは到着し、国境を越えるための交通手段を探しつつも隠れていた。なぜならエルネスト大公が見当たらず、アレクシナがフリテツリ公爵に「エルネスト大公はオーストリアに逃げ戻ってしまったのよ。」と語ったからである。アレクシナはそうなのだと信じていた。

こうなったらアンリの側に立つことで、まだご褒美にありつけるかも？と、アレクシナはフリテツリ公爵に提案した。

§2

アレクシナが昔の(アンリとの)恋愛を本当に再び燃え上がらせようとしているのではと疑い、フリテツリ公爵は「今はヴェニスではなくてポーランドにいるんだ。ここではヴェニスとは「妻」というものの振舞いが全然違うのだよ。」と改めてアレクシナに語るのだった。

§3

その時ミンカが到着して「彼女のアンリ(=ナンジ)」を探したが、アレクシナとミンカは各々の恋人を待つ運命を思い描いて絶望していた。(彼女らは二人とも、それぞれの恋人の正体が誰なのかすっかり混乱していたが…！)ナンジが実際に王を殺した、という誤った情報をフリテツリ公爵から伝えられたミンカは悲しみのあまりその場に崩れ落ち、一方



アレクシナはアンリが暗殺者なのだと想像して彼を何とか逃がさなければと心を決めたのだった。

§4

ミンカがまさに自殺せんとしたその時、ナンジが突然現れこの恋人二人は大喜びで再会を果たした。(ミンカはまだナンジが王なのだと信じていたが…。)

アレクシナとアンリは国境を越えて逃走しようと企てていたが王の守護隊により連れ戻され、ミンカとナンジに先導され連れて行かれた。アレクシナやミンカにも、漸く彼女たちそれぞれの恋人の“正体”が判り、他の混乱も全てがうまく解決して、結局のところアンリはポーランド王の冠を受ける決心をする。



§ 5

最後に、国民はみなこのポーランドの”いやいやながらの王様”の長寿を願うのであった。

(3)

